

(牛) 肝てつ症を予防しましょう！

今年度は東日本大震災に伴う国産稲わらの供給不足が予想されるため、今年度産の稲わらや野草を利用する事例が増えると予想されます。

こうした粗飼料の給与により、これまで発生の少なかった牛の肝てつ症が増加することが懸念されます。

肝てつ症の予防には、従来行われてきた対策を行うことが大切です。下記のポイントを参考に予防対策を行い、大切な家畜を肝てつ症から守り、生産性を維持しましょう！



<肝てつ症予防のポイント>



1. 定期的な駆虫薬の投与を行いましょう。
(診療獣医師と相談の上、投与を実施してください。)
2. 今年度産の稲わらや野草を利用したら、肝機能の低下による異常の発生に注意しましょう。

➡ 粗飼料切り替え後、感染した量により症状が現れるまで個体差があります。異常牛の診断の際、粗飼料の給与状況も併せて診療獣医師にお伝え下さい。

肝てつ症とは？

- 肝臓に寄生する寄生虫により発生する病気です。寄生虫(肝てつ)は稲わらや水辺の野草に付着・長期生存し、牛に食される機会を待ちます。
- 著しい数が寄生した場合、重度の肝障害が起こります。肥育の伸びや仕上げ、妊娠の維持に影響が出ます
- 定期的な駆虫で予防できます。

飛騨家畜保健衛生所

TEL(0577)33-1111 FAX 32-9019 E-mail: c24508@pref.gifu.lg.jp

ご不明な点は、獣医師もしくは家畜保健衛生所までご相談ください。